



退任に当たって

基礎地盤コンサルタンツ㈱ 齋藤芳徳

この度、平成9年4月1日付けで九州支社に転勤となり、永年住み慣れた仙台を離れ、福岡に赴任することとなりました。丁度10年前の昭和62年、奇しくも福岡から東北支社長として仙台に赴任し、東北人の私としては故郷も近くなり、家族共々喜んでいましたし、事実東北の暖かい人情、うまい食べ物、うまい酒に触れる機会が多く、あっと言う間の10年でした。そろそろ転勤の時期かなと何となく予感していましたが、現実のものとなりしかもまた福岡とは！しかし東北の業界の多くの皆様の知己を得ることができ、私にとって大変有意義な時期を過ごさせて頂いたと感謝しております。

東北協会の活動には、昭和63年から理事に推薦されて参加し、9年の間に技術委員会委員、広報委員長、総務委員長、また平成8年の後半は副理事長を務めさせて頂きました。近年は、どの委員会も活発で積極的な活動を行っており、協会の充実ぶりが伺えると実感しております。特に平成8年

9月に開催された「技術フォーラム'96仙台」では、その力が遺憾なく発揮されたものと思います。私は企画・実行委員長を務めましたが、委員として参加して頂いた会員各社の若い技術者と直に交流することができ、全員の努力の結集によって全地連はじめ他地区の協会の皆様から高い評価を得ることができたことが最も大きい思い出となりました。6月4日に開催された定期総会が、副理事長、総務委員長としての東北協会での最後の仕事になりましたが、多くの方々に新任地での励ましの言葉を頂き感激しています。ただ翌日の親睦ゴルフに仕事の都合で参加できなかったことが悔いとして残っています。

博多での単身生活も3ヶ月を過ぎようとしています。初めての経験なので苦勞も多く、今更ながら家人の有難さが身に滲みている毎日ですが、仙台での単身赴任の大先輩達（中央開発辻支店長、応用鈴木支社長等）の事前のアドバイスのお陰で、今のと

ころ順調に経過しています。博多は仙台と類似点も多く、2度目の勤務と言うこともあり住めば都でやはり愛着があります。生活の基盤が仙台なので、ほぼ月1回の割で帰仙していますので、機会があれば協会の皆さんとお会いしたいと考えています。

最後になりましたが、暖かい御指導と冷たい御助言を頂いた理事長はじめ理事の皆様方、特に国分町の良きライバルだった後任の辻新副理事長に深甚の感謝を申し上げますと共に、東北協会並びに会員各社の益々の御発展をお祈りし退任の挨拶とさせていただきます。

